

経皮的僧帽弁接合不全修復術前のフレイルが予後に与える影響

1. 研究の対象

2019/1/1～2023/9/31までに経皮的僧帽弁接合不全修復術を受けられた病者さま。

2. 研究目的・方法

経皮的僧帽弁接合不全修復術を受けられた方は、心不全の治療効果を改善し、生存率を高める効果があるとされています。その反面、高齢心不全患者にフレイルが合併した場合は、死亡率が上昇するとされています。そこで、術前のフレイルが予後に与える影響を調査することを今回は目的としています。カルテから情報を取得し上記の検討をさせていただきたいと思います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

カルテ情報から取得できるリハビリの経過や検査結果等を取得させていただきます

4. 外部への試料・情報の提供

外部への資料提供はありません。

5. 研究組織

心臓病センター榊原病院

6. お問い合わせ先

〈問い合わせ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先〉

心臓病センター榊原病院 リハビリテーション室

住所：岡山市北区中井町 2-5-1

電話：086-225-7111

実務担当者：北條 悠

研究責任者：石口 祥夫